

令和2年10月7日（水）開催 ワーキング会議での主な意見集約

まちの状況	現状	すべての谷あいには集客がある。バス停も非常に遠いところがある。自宅から最寄バス停まで数kmある。
	現状	庄原駅周辺の飲食店が少なく観光客への案内が難しい。
	【西城】国勢調査の結果を5年前と比べても、深刻化している。	
人の動き（通勤・通学）	【総領】人口が1,267人だが、大きな高齢者施設も含まれ、自宅に住んでいる人口はもっと少ない。買物や医療ニーズが地域内で抑えず、庄原地域への直通の交通手段が欲しいという声がある。	
	【比和】人口は1,300人。買物や医療ニーズが地域内で抑えないため、庄原地域への直通の交通手段が欲しいという声がある。	
	課題	備後庄原駅周辺が庄原の中心になっておらず、駅から市街地へ人を引き上げる取組が必要。商工団体含めて考えるべき。
人の動き（買い物・通院）	現状	【高野】高校で部活をしていると、高野から庄原へのバス通学ができず、家に入ること。どうせ兼ならと、三次や広島等の隣接自治体に出ていく。
	現状	【口和】高校生の通学にバスが利用されていない。運賃が高いかからだと思う。保護者が送迎しているのだろう。
	課題	高齢者によって生活環境・身体状況が大きく違う。多くの高齢者がまだ車に乗り、乗れなくなった時の不安が大きい。
人の動き（観光）	現状	【西城】買物難民の問題。町内にウィル、コンビニ、商店の3軒くらいしかなく、年末に1軒も営業していないことがあった。
	課題	【西城】夕方に西城病院に運ばれた人の帰りの手段がなかった事例を踏まえ、包括ケア推進会議等も含めて研究した。
	課題	【高野】高野も生活圏は三次や島根県方面もあり、三次方面にかなり通院する。庄原の生活交通は三次に行く手段が整備されていないことが自治体間の課題でも出ている。自治体の枠を超えた交通を、考えていく必要がある。
人の動き（観光）	現状	庄原バスセンターへの一次交通はあるが、そこから観光バスポット・宿泊施設等へ行く二次交通アクセスが弱い。帝釈峠への行き方の問い合わせをよく受ける。帝釈峠から次へ行く交通手段、観光地を周遊できる手段がない。
	現状	観光二次交通は問題。観光のポテンシャルはあるのに活かせていないのが残念。
	課題	【東城】帝釈峠は土日祝日に路線バスが走っておらず、タクシー等では行けない。
J R	課題	広島空港・福山駅・尾道駅・出雲空港など、山陰－山陽を横断する拠点ではあるものの、広域周遊の交通アクセスも課題ではないか。
	現状	災害に対して非常に脆弱。地形的な問題もあり、遮断性はないかもしれないが、運休等で利用者減につながっているのではないか。
	現状	時間が決まっているということのメリットは別途ある。帰る時間が読めるなど。
課題	現状	利用者が減っている。特に東城－備後落合間で運行便数が非常に減っている。利用者が少ないと、利便性を高める取組が取れづらい。
	課題	芸備線の存続活動で様々な団体が様々な活動をしている。その一元化したPRも必要だと思う。

高速バス	現状	東城―庄原間が1,300円代と高額（東城―広島間が2,200円） バスにトイレがないので不安で、行きたいけど乗らないという声がある。 市外から来た方が高速バスを降りた後、二次交通がない。庄原駅も不便と聞く。和知や帝釈等は、降りた後どうしたらいいのかと言われる。 高速バスは非常に便利。個人的には車で出るよりバスでゆったり行く方がいい。 庄原中学校での利用が多いように思うが、石塔池の駐車場が無料であるのも一因かと思う。 日中の利用が少ないようだが、星間は少し割り引くとか変動運賃の導入も考えても良い。大阪便にはあるが、予約制だから行いやすいのかもしれない。
	解決策	バスパックの考え方も入れてもいい。
		乗務員不足である。法改正で二種免許を取得するハードルが少し下がるようだが、依然大きなハードル。
		運賃が相対的に高くなっている。高速バスと比較しても、郊外・旧町への路線バスは高く感じる。
路線バス	現状	朝夕、学生や通勤での利用があるが、日中はほとんどお客さんがおられず、空気を運んでいる状態が見られる。 土日祝日に中心部を走るバスはひまわりバスと数本の路線バスのみ。バスが非常に少なく外出しづらい。 自家用有償運送と路線バスでバス停が遠い箇所があってわかりにくい。 【庄原】ひまわりバスは、目的地に行くのに1方向で時間も45分くらいかかるが、100円で乗れて便数もあるので、比較的利便性があると思う。市民の方、周辺部の方も含めて活用してもらえればと思う。 【東城】路線バスは災害に弱く、通行止め・迂回運行せざるを得ないことがある。特に粟田経由で小奴可方面に向かうバス。
	課題	クルマがあるから今は便利だが、幹線から歩くには距離がある。バス停までの手段を考えないといけない。 高齢化率が高くなり、免許返納する人も増えてくる。高齢者を中心に路線バスが必要。
	解決策	年間乗り放題のバスがあってもいいのでは。
		バス停に自転車やシェアカーを置くスペースがあるととても利用しやすくなるのではないか。

市営バス・生活バス	現状	スクールバスを除く生活交通の事業者への補助金が2.5億円。これ以上の負担は難しいものも今回の交通計画の中で大きな課題。便数が少ないと聞くが、財政面でも対応が難しい。将来のことが不安で増やしてほしい、年に1〜2回乗ろうと思ったときにこの時間のバスが無い、といった声があり、ニーズの量としてどう捉え、事業化すれば効率化が図れるのか読みにくい。
	解決策	【総領町・比和町】高齢者は乗り継ぎが非常に難しく、地域生活バスが庄原まで行けないかと相談がある。
	解決策	【東城】週2回の生活交通バスを運行していて、非常に利用が多かったが、乗務員不足で廃止となった。
一般乗用タクシー	解決策	【中心部】ジョイフルとザ・ビッグ・かんぼの郷・日赤・金融機関等の目的先と公共交通で連携して相乗効果を出せばいい。
	現状	【庄原】年々タクシーの夜の時間帯の利用者が減り、深夜はほぼ稼働していない。多くの会社が夜は営業しない。利用者が不便との声もたまに聞く。
	現状	【庄原】高齢者にはタクシーが一番便利ではあるが、費用がかかる。特に送迎が必要な人など頻度が高ければ費用負担が重くなる。
	現状	【東城】町内移動でも山間部から市街地まで移動すると星間でも4,000〜5,000円かかる。
	現状	【口和】タクシー会社は1社で、しかも1台しかない。利用者が少ないからだと思うが、営業時間は星のみ。乗務員がスクールバスも担当しており、その時間帯の利用が難しい。
市民タクシー	課題	夜の移動をどうするか。飲みの時もあるが、緊急時の移動手段は、タクシーが使えない。日中も高齢者の世帯については由々しき問題。
	現状	自治振興区がタクシー会社と契約して市民タクシーを運行しているが、地域の高齢化率が非常に高く、事務局を務めること自体が難しくなっている。
	現状	老人ホームに入居した人が外出する手段が非常に限られている。サービス外のところで介護職員が送り迎えしていたが、施設内の人手が不足していて難しくなった（入居する人の重度化もある）。
福祉関係	現状	福祉タクシーの経営が厳しい。運転士も二重免許と介護技術の両方がないと難しい。なり手が少ない。車いすが乗る特殊車両の購入・維持が難しい。
	現状	スクールバスの運行に割く運転手人数が増加。夕方の時間帯に重なり、その時間帯（15:00〜17:00）にタクシーがゼロになる。タクシーがなく家に帰れない人がいるという声をきく。
	現状	ドアから学校までのきめ細やかに運行しているが、人員体制の問題もあり、サービスを維持できるかが問題。教育的観点でいえば、きめ細やかすぎるのでは。
スクールバス	課題	学生が乗る時間は集中している。大きな路線バスに数人しか乗っていないのを見ると、学生以外の人も一緒に運べれば効率的、人数によっては小型にすればいい。維持費も安い。
	解決策	コロナの影響で星の暑い時期に通学することになり、普通のバスを使っているのかという話があった。地域の見守り隊にどこで降りるか伝えて、何回か利用した。学校も協力し、普通のバスを通学に利用するなど、バスに乗り継ぎを作ることで、ハードルが下がるのでは。

その他	現状	近頃のサロンに行くなど、近場での移動ができなくなる。乗り合せは気兼ねするし、乗せる方も事故の不安などがある。 公共交通を利用していない人にもどうやって1回でも利用してもらおうか？イベントでの利用？健康？ 子どもがバスの乗り方を知らない。親がクルマを持っていてバスに乗らない。広島に行くのに高速バスを使う。三次まで路線バスを使ったのは高校のときに塾に行ったぐらい。今乗るとなると緊張する。親がバスに乗らないから、子供も乗らないという悪循環になる。 低額のもの走っていない庄原市ではクルマが無いといけない。すべてにおいて公共交通に置き換えることはできない。ライフスタイルのなかで自家用車が無いと生活が成り立たない。自家用車と公共交通の組み合わせ・すみわけを考える必要がある。田舎の高齢者に免許をいきなり返納させようとしても不安しかない。近所の人が免許更新できなかったと家族で話題になった。原付も乗れなくなり、どうするのかと話でた。近所の人とどう付き合うのか、集合なども含めて、若い人も含めて本気で考えていかないと地区は置きざりになるし、年を取ったら放っておかれるのかと思うと、それはよくない。 地域で無償で乗り合いをする支えあいの取組をしているところもあるかもしれないが、いつまでそのサービスを続けていけるか。遠慮が出ることもあるだろう。少しだけでも「お気持ち」を示すことでつながるという考え方も必要。 市域の面積が非常に広い。旧市町ごとでも非常に広い。交通事業者の数も違うので、旧市町ごとで交通ネットワークの手法が異なっている。合併以降、しかたないと思っているが、それをどうつないでいくのか、公平感なども含めてどう考えていくかが課題。 星間の時間に人が乗っていないことについて、縮小していくことは簡単だが、皆さんに出てきてもらう方法を考えることが重要。
	課題	企業が持っているバスなどを星間はうまく活用するアイデアもあると思う。 大学生は一定の利用規模があるのでは。マニア的な学生や先生もいるのでは。県立大庄原キャンパスを公共交通の活性化や地域づくりに活用できないか。自動車学校の送迎バスも利用できないか。 交通や地域情報の一元的な発信やマネジメントがされるといい。現状は各運行事業者等のHPしかない。市民や利用者目線のオールインワンのポータルサイトの運用できれば。 バス等に乗りに慣れない高齢者や子供に対して、ITなどを組み合わせて外出ハードルを下げていく考え方もある。防災無線の代わりにiPadを渡すなど、なじみのものを少しずつ変える方法もある。
	解決策	